

第4次総合計画改訂版素案に対する意見（第1部会 R5.6.15開催）への回答

大綱7 都市魅力

政策1 地域経済の活性化を図るまちづくり

| | |
|---------|------|
| 第4回総計部会 | |
| 資料5 | R5.7 |

| No. | 委員意見 | | 所管室課意見・修正案 | 所管室課名 |
|-----|-------|--|--|---------|
| | 該当箇所 | 意見 | | |
| 1 | 現状と課題 | <p>女性の登用について、中小企業はなかなか制約があり難しい。もう少し充実できればいいかなと思っている。保育園の数は改善されてきたが、吹田市外で仕事する人など、子育て支援に力を入れないと、企業も生き残っていけない。行政ともう少し連携を図り、ご支援をいただきたい。</p> <p>SDGsのゴール8「働きがいも経済成長も」のターゲット8-6が「若者の雇用・教育・職業訓練を推進しよう」で8-Bが「全世界で、若者が働きやすい仕組みをつくらう」であり、これまでハンデを負っていた女性へのエンパワメントも含まれる。吹田市ではいろいろなことに取り組んでいるのであれば、現状と課題に、「若者と女性」を対象として取組を行っているとは明確にできないか。最後の段落に入れられるのではないか。</p> | <p>本市労働行政においては、障がい者やひきこもり経験者、女性、若者、シニア世代などの様々な課題がある就職困難者を含めた全ての求職者に対して幅広く就労支援を実施しています。若者や女性に対する取組については重要であることは認識しており、セミナーや啓発など、実施計画における各事業の中で濃淡をつけながら注力しております。</p> <p>以上のことから、基本計画では対象者の濃淡をつけた記載を敢えてしないことにより、実施計画における事業を推進する中で、社会情勢に応じた柔軟に対応ができるようにしていきたいと考えております。</p> | 地域経済振興室 |
| 2 | その他 | <p>若い人の仕事に対する意欲、将来性、目標を持っていただけるような教育に力を入れてもらいたい。市と商工会議所がお互いにアイデアを出し合い、もう少し連携して効果的に動いていきたい。連携の場については前々から部会でも出ており、商工会議所との意見交換の場をもう少し活発にできないか。</p> | <p>若者への支援につきましても、現状の取組におけるPDCAサイクルを常に意識しながら改善を図り、吹田商工会議所をはじめとした各関連機関との情報連携を一層進められるように取り組んでまいります。</p> | 地域経済振興室 |

政策2 文化・スポーツに親しめるまちづくり

| No. | 委員意見 | | 所管室課意見・修正案 | 所管室課名 |
|-----|------|--|--|-----------|
| | 該当箇所 | 意見 | | |
| 1 | その他 | <p>これからはいかに参加者を増やすかが課題。声かけなど、どういった手段がよいのかを一緒に考えてほしい。スポーツ指導者の育成にも取り組んでいるが、一方で引退していく人もいる。これから人数が確保できるかどうか。体育館などの環境整備はしっかりしてくれているが、その施設に人を集めていく必要があり、市と協力して進めていきたい。また、講座だけではなく、広報の仕方を含め、日々、スポーツに気軽に触れられるというのが今後の重要な視点になるのではないか。</p> | <p>現在、吹田市スポーツ推進計画を策定中であり、具体的なスポーツ推進の進め方については、計画の中で記載していきたいと考えています。</p> | 文化スポーツ推進室 |

政策3 市民が愛着をもてるまちづくり

| No. | 委員意見 | | 所管室課意見・修正案 | 所管室課名 |
|-----|---------------|---|---|---------------|
| | 該当箇所 | 意見 | | |
| 1 | 施策指標 7-3-1 | 施策指標「すいたフェスタへの参加者数」とあるが、すいたフェスタに大学生など若い人も参加しているのではないかと。人数だけではなくどういった層が参加しているかなどの中身も必要ではないかと。 | 今後、開催回数を重ねる中で、年齢層に関する指標設定の検討は必要と認識していますが、当該催しの創成期である現段階においては、来場者数を優先的な指標とし、取組を進めたいと考えます。 | シティプロモーション推進室 |
| 2 | 施策指標 7-3-2 | 施策指標「大学との連携による事業やイベントなどの年間実施回数」について、大阪大学では見たことがない。大学で行っているイベントのことを指すと思っていた。分かりにくいので指標名への工夫を検討してみてもどうか。 | 「大学との連携による 市民対象 の事業やイベントなどの年間実施回数」に改めます。 | シティプロモーション推進室 |
| 3 | 施策指標 7-3-2 | 施策指標「連携授業等への参加を契機に市政への参加意欲が向上した学生の割合」について、どういった年齢層の学生にどういった調査をするのか。学生は、向上しなかったとは答えにくい。アンケートの結果が成績にも影響すると懸念する。調査方法の文面で誘導しないようにした方がよいと思う。「参加したい」とは誰でも言えるが、実際に市政に参加した大学生の数を指標にした方がよいのではないかと。 | 市政への学生の参加については、一朝一夕で成し得るものではないため、参加に至るまでの過程をつぶさに見ていく必要があると考えます。当該指標については、参加への第一歩となる学生の意識変化を測るために設定したものです。また、ご懸念されている学生へのアンケートについては、大学と内容を協議のうえ率直な声が聴取できるような形で実施します。 | シティプロモーション推進室 |